

シクリスムエコーNo.111 2004年9月号

ATHENS 2004 チームスプリント銀メダル!!	2
日本新記録	7
第39回全国都道府県対抗自転車競技大会	8
文部科学大臣杯 第60回全日本大学対抗選手権	10
平成16年度全国高等学校総合体育大会	12
第35回全日本実業団選手権・第38回全日本実業団対抗ロードレース	14
2004トラックジュニア世界選手権	16

第36回ツール・ド・ラビティビ	17
第21回シマノ鈴鹿国際ロードレース	18
第20回全日本BMX選手権/BMX世界選手権	19
トラックナショナルチーム強化指定選手選手選考について	20
第5回チャレンジ・ザ・オリンピック実施要領	20
2004年ロード世界選手権派遣選手団	20
2004年MTB世界選手権派遣選手団	20

**MTB世界選DH女子エリートで未政が銀！**

9月8日～12日、フランス・レジェーで行われた2004年MTB世界選手権のDH女子エリートで未政実緒が堂々の銀メダルを獲得した。

速報!!

ATHENS 2004 チームスプリント銀メダル!!

ロードレース男子

優勝はイタリアのベッティーニ

8月14日午後12時45分。気温33度。153名の選手たちがアテネ・オリンピック最初のメダルを目指す、総距離224.4kmのロードレース男子がスタートした。

レースは最初から波乱含みだった。スタートして間もなく、まだ市街地の直線路で4～5名が絡む落車が発生。これに優勝候補に挙げられていた昨年の世界チャンピオン、スペインのアスタルロア、そしてオランダのエース、ポーヘルトが含まれていた。ポーヘルトは痛んだ脚を引きずりながらも程なく復帰、しかし、アスタルロアは強打した腰を抑えたまま立ち上がれない。結局、アスタルロアも時間をかけてレースに復帰するが、ポーヘルト、アスタルロアともに最初の周回でリタイアとなった。



田代

男子ロード

気温がさらに上昇する中、最初に動いたのはスウェーデンのバックステッド。2周目の上りで仕掛け、一人逃げの態勢を作った。一時はメイン集団と4分近い差をつけたバックステッドだったが、これを追って6周目にフランスのヴィランクが集団を抜け出す。続いてハンガリーのボドロギ。二人はやがて一緒になりトップのバックステッドを追う。

9周目。その表情にはっきりと疲れが見え始めたバックステッドに後続二人が追いつきトップグループは3人に。この辺りからメイン集団では、ウルリヒ擁するドイツ勢が主導権をとって集団のスピードを上げにかかる。

10周目。ついにトップグループ3人が集団に吸収される。これ以降、集団は、ドイツ勢が組織的にペースを握る形で終盤へと向かう。

そして残り2周となった16周目。リカヴィトスの丘の上りでイタリアのエース・ベッティーニが満を持しての攻撃。これにポルトガルのパウリニョただ一人が続く。この攻撃は酷暑とスピード・コントロールに疲れた有力チームを見事に出し抜く形で決まり、後続の集団に決定的な差をつけることとなった。

結局ゴールは二人のスプリント勝負となったが、イタリアのエースとポルトガルの無名選手とでは結果は明らか。ベッティーニが相手の動きを読みきって余裕のゴール。オリンピック初優勝を遂げた。

日本勢二人の結果は、膝の痛みをおして走り続けた鈴木真理は、9周完了時点で無念のリタイア。田代恭崇は完走は果たしたもののトップから8分51秒遅れて57位という結果だった。

ロードレース女子 沖美穂は20位

8月15日、朝から曇りがちの天気。風も強い。刺すような日差しが照りつけた昨日と比較すれば幾分すこしやすいが、この風がレースにどう影響するのかわかりにくい。また、午後の夕立の予報はなくなっていたが曇行きは依然怪しい。これから行なわれるロードレース女子は参加選手67名。昨日の男子と同じ13.2kmの周回コースを9周回、総距離118.8kmで争われる。スタートは午後3時。日本からは沖美穂、唐見実世子の2選手が出場する。

沖は日本の女子ロード界の第一人者。現在はオランダの強豪チームに所属し世界トップレベルのレース環境で自分を磨いている。今回はシドニーに続き2度目のオリンピック。そのシドニーでは途中落車のアクシデントもあって不本意な成績に終わっている。今回はその雪辱の思いも強い。

午後3時、号砲とともにレースはスタートした。序盤は淡々とした集団走行が続く。前段にはオランダ、スペイン、オーストラリアなど有力チームのメンバーが顔をそろえる。中でもシドニー大会でこの種目を含め3つの金メダルを獲得したオランダのゼイラート・ファンモールセルの存在が際立つ。集団を一人で支配している雰囲気だ。オランダで同じチームに所属する日本の沖もその近くに位置を取っている。

唐見は集団半ば。

レースが動き出したのは4周目に入ってから。コース最初の上り手前でスペイン選手がかけた攻撃が成功。中間ポイントで30秒の差をつける。追う集団もスピードが上がり、一つの塊だったものが途切れ途切れの長い糸のように伸び始めた。ここで千切れてしまったら終盤の勝負権はなくなる。沖も唐見も必死の形相でペダルを踏む。逃げるスペイン選手、追う切れ切れの集団という展開はほぼ1周回後に収束。レースはそのまま終盤に入った。

7周目。コース前半の市街地でカナダ選手が攻撃、一人逃げの態勢に入る。後方メイン集団もスピードを上げるがその差が徐々に広がっていく。

周回後半のアクロポリス下りでメイン集団がスピードを上げ逃げるカナダ選手を追い上げに入る。7周目から8周目にかかるホームをカナダ選手が通過。それから50秒ほど遅れてメイン集団がホームに差し掛かる。その時、前方で落車が発生。4～5名が自転車から投げ出される。その中に頭を抱えてうずくまっている選手がいる。優勝候補の筆頭、オランダのゼイラート・ファンモールセルだ。プレス席のテレビモニターには落車時の様子がリプレイされる。集団2番手につけていたゼイラート・ファンモールセルが、一瞬ハンドルから片手を離し後続の様子を確認しようとする。その時、前のスペイン選手の後輪にゼイラート・ファンモールセルの前輪がひっかかり、彼女はもんどりうって落車。すぐ後ろにつけていた何人かもそれを避けきれずに次々落車していく。頭を強打したゼイラート・ファンモールセルは結局レースに復帰できずここでリタイア。圧倒的な存在感でここまで集団を支配していた力が突然



沖

女子ロード



なくなった。

残り2周となった8周目。カナダ選手の一人逃げはまだ続く。メイン集団がリカヴィトスの丘の上りに入ったあたりで、イギリスのクック、オランダのメルシャス、オーストラリアのウッドなど有力選手を含む6~7名のグループがスピードを上げ集団から抜け出しにかかる。沖はその後方に位置するがスピードが上がらない。唐見はさらに後方であえいでいる。

アクロポリスに入ったところで集団から抜け出したグループが逃げるカナダ選手を捕らえ8名のトップグループが形成される。そして最終周回。8名のトップグループはアタックと牽制を繰り返しながら自らを最後のふるいにかけていく。

そんな中、リカヴィトスの丘の下りでオーストラリアのキャリガンがアタック。これが決定的となった。このアタックについてこれたのはドイツのアルントただ一人。残った6人も必死の追い上げをはかるが、ここにはもう一

人のオーストラリア選手ウッズがいてそれを許さない。

残り400mは二人のマッチレース。結局スプリント力に勝るキャリガンがアルントとのゴール勝負を制してアテネ・オリンピック、金メダルの栄冠に輝いた。

沖は第3集団でゴール。結果は20位で日本人としてこの種目過去最高の成績を収めた。唐見も完走を果たし41位の成績だった。

自転車トラック競技初日

500mTTの大菅小百合は10位

8月20日、男女併せて190名の選手たちが参加して行なわれるトラック競技が開幕の日を迎えた。

500mTTは5時15分から。出走順位1番の大菅はその時間にスタートする。



カウント0の電子音とともに大菅がスタート。タイミングは問題ない。これまで課題としてきたスタート時の踏み戻しもなく前にしっかり踏んでいる。上々の滑り出した。1周目のタイムは19秒704。一昨日・昨日と続けて出した1周タイムの自己ベストを0.1秒上回っている。このままのスピードで残り1周を乗り切れれば、ずっと目標に掲げてきた34秒台にも手が届く。そしてゴールは・・・。

電光掲示板に表示されたタイムは35秒045。目標とした34秒台には惜しくも



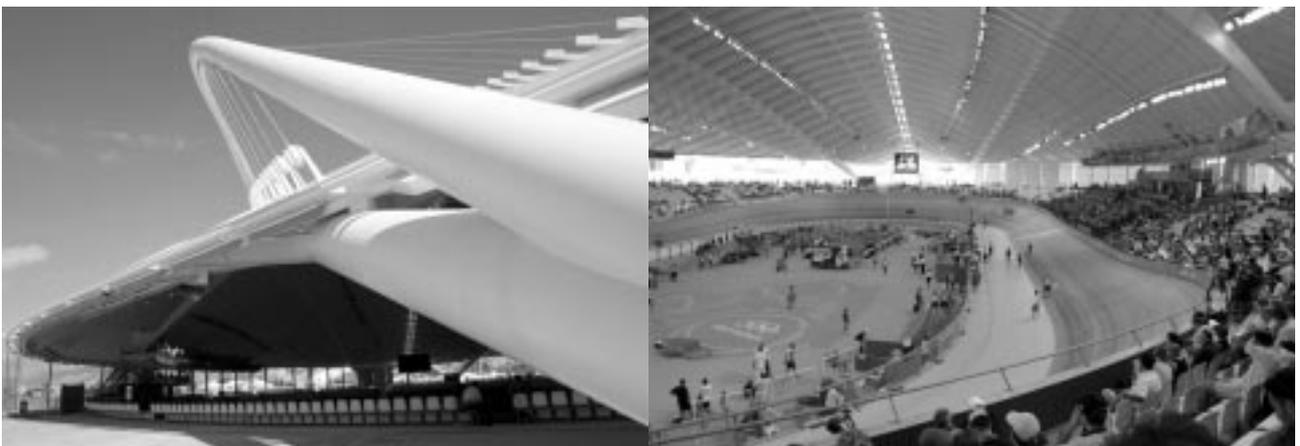
500mTT10位の大菅

(C) PHOTO KISHIMOTO

届かなかったが自らが持つ日本記録を0.4秒縮める好タイムだ。ゴール後一瞬落胆の表情を見せた大菅だったが、自転車を降りる頃にはすでに、いつもの前向きな自分の姿を取り戻していた。スケートと並行しながら自転車競技を始めて2年余り。大菅の長い夏は5回目の日本記録更新をもって終わった。

12名の選手が参加して行なわれた500mタイムトライアル。最終的に栄冠を勝ち取ったのは、最終走者としてスタートし33秒952の驚異的な世界新記録をたたき出した今年の世界チャンピオン、オーストラリアのアンナ・メアーズだった。大菅は結局10位という成績だった。

この日行なわれたもう一つの決勝種目は1kmタイムトライアル。結局金メダルを勝ち獲ったのは、こちらやはり今年の世界チャンピオン、イギリスのクリス・ホイで1分00秒711のタイムだった。



チームスプリント



(C) PHOTO KISHIMOTO

日本、チームスプリントで 銀メダル獲得!

自転車トラック競技2日目。日本はこの日行なわれたチームスプリントで、オリンピックにおける日本の自転車競技史上初となる銀メダルを獲得した。日本のメダル獲得は1984年ロサンゼルス(坂本勉・スプリント銅)、1996年アトランタ(十文字貴信・1kmTT銅)に続いて3度目。銀メダルは過去最高位となる快挙だ。

その第1歩はこの日最初の競技として行なわれたチームスプリント予選。第1走者に長塚智広、第2走者に伏見俊昭、そして第3走者に井上昌己という不動の布陣で臨んだ日本は、ここで

44秒355という好タイムを出し参加12チーム中3位につける。このタイムは、今年5月の世界選手権で出した45秒219の日本記録(250mトラック)を1秒近く上回る日本新記録だ。

これで勢い付いた日本は、次の1回戦では予選タイムを上回る44秒081の驚異的とも言えるタイムで対戦相手オランダを下す。日本は結局勝った4チーム中2番目のタイムで1-2位決定戦行きが確定。同時にこの時点で金か銀かのメダル獲得も決定した。

1-2位決定戦。相手は予選を44秒251、そして1回戦を43秒955という日本以上の驚異的なタイムで勝ち上がったドイツ。レースは2周目までほ

ぼ互角のペースで進んだが、最終的には第3走者に1kmタイムトライアルの前世界チャンピオン・ニムケを擁するドイツが競り勝ち金メダル。日本は2位・銀メダルとなった。

自転車トラック競技開催3日目

午前中に行なわれたスプリント男子・予選200mタイムトライアル。日本からは昨日銀メダル獲得という快挙を成し遂げたチームスプリントの第1走者・長塚が出走し10秒646のタイムでこの予選を14位で通過した。しかし長塚は、昨日の力走の疲れからか予選出走後脚に違和感を覚え、結局その後の競技は棄権となった。

また、この日行なわれた唯一の決勝種目・個人追抜女子は、ニュージーランドのサラ・アルマーが予選で出した自らの世界記録を更新する3分24秒537の世界新記録で優勝した。アルマーはこれで今年になって世界記録を3度更新したことになる。ロード個人タイムトライアルの覇者でこの種目に自身5つ目の金メダル獲得をかけていたオランダのゼイラート・ファンモールセルは、結局3位という結果だった。

ポイントレース男子 飯島誠は16位

自転車トラック競技5日目。日本の飯島誠がメダル獲得の期待を背負ってポイントレース男子に出場した。



チームスプリント表彰式の3名

(C) PHOTO KISHIMOTO



ポイントレースの飯島

飯島は今年4月のワールドカップ第4戦で5位。そして5月の世界選手権では6位という確固たる実績を残してこのオリンピック参戦。当然周囲も、また飯島自身もその可能性を信じてこの日を迎えていた。

しかしレースは、スタート直後から飯島の思惑から外れる展開となった。レースの流れをじっくり読みこぞという時に勝負をかけてポイントを獲得。これがここ数年で飯島が得とくしたレーススタイルだった。だが今日のレースは最初からだれ彼かまわずラップを獲りにいくスピード展開。序盤は様子見と踏んでいた飯島にとっては虚を突かれた格好だ。次々にラップを重ねていく高速集団。飯島も幾度となく勝負を仕掛けるがことごとく潰され、またあきらめ、集団後方に取り残されていく。

結局飯島はスプリント・ポイントで13ポイントは獲得するもトップから遅れること4周回。無念の16位という結果に終わった。

一昨日から行なわれていた男女スプリント、女子決勝はカナダのベテラン・ムンツァーとロシアの新鋭アバソバの対戦。レースは1回戦・2回戦共にスピードでムンツァーがアバソバを凌駕し、今大会自転車競技ではカナダ勢初の金メダル獲得となった。

一方スプリント男子決勝は1回戦をボスが、2回戦をベイリーが共に僅差のゴール勝負を制するという激戦となった。

そして迎えた決定戦。先に動いたのはボスだった。先行するベイリーを残り2周でかわして主導権を握る。そして残り1周の打鐘とともにスパート、一気の逃げ切りを図る。しかし今大会

群を抜くスピードでここまで勝ち上がったベイリーが最終4コーナーでボスを捉えて逆転。最後は右拳を突き上げながらの余裕のゴールでオリンピック・チャンピオンの座を勝ち取った。

ライアン・ベイリーがケイリンも制す 伏見俊昭は無念の1回戦敗退

トラック競技も最終日を迎えた。この日行なわれた決勝種目は、ケイリン、ポイントレース女子、そしてマディソンの3種目。日本期待のケイリンにはチームスプリントの銀メダリスト伏見俊昭が、その興奮から中3日をおいて出場する。

伏見が最初に出場するのは今日の競技開始と同時に行なわれるケイリン1回戦・第1組。そこには昨日スプリントで金メダルを獲得したオーストラリアのベイリーや現世界チャンピオン・イギリスのスタッフ、それにドイツのフィードラー、オランダのボスなどこれが決勝と言われても疑わないほどの豪華メンバーが顔をそろえている。ストレートで準決勝に進めるのは2着まで。参加選手22名が3組に分かれて行なわれる予選の中で、最も競争率が高い組での出場だ。

<ケイリン1回戦 第1組>

7名の選手が乗り合わせたケイリン1回戦1組。くじ引きによって決められた伏見のスタート位置はインから5番目。胸に手を当て大きく深呼吸。そして準備は整った。号砲と同時に7車一斉にスタート。前の位置を狙ってスタート直後は団子状態となる。伏見も同じく前を伺うが入る余地なく後退。5～6番手で様子を伺う。

3周目に入って隊列は決まり、前からオランダ・ボス、オーストラリア・ベイリー、ドイツ・フィードラー、ギリシアのバシロプロス、5番手に伏見俊昭、その後ろにポーランド・クイアコウスキー、そして最後尾にイギリスのスタッフという並びで周回は進む。レースが動いたのは残り3周。まず5番手の伏見が主導権を狙って踏み出した。しかしそれより早く後方・外からフィードラー、クイアコウスキーが一気に上昇。その踏み出しは強烈で、伏見は内と外に挟まれる形となり後退を余儀なくされてしまう。そして周回はフィードラー先頭で残り1周。ここで

後方から猛烈なスピードで上がってきたのはベイリー。結局ベイリーは最終バックでは先頭を取り切り余裕の1着。2着にはベイリーにつけて上昇したギリシアのバシロプロスが入った。伏見は残り3周の主導権獲りを失敗し、その後は前に出るタイミングを逸して6着に終わった。

<ケイリン敗者復活戦 第2組>

もう後がなくなった伏見が臨んだ敗者復活戦。5名の選手が乗り合わせる中2着までに入れば準決勝進出となる。メンバーはフランス・ブルガン、グアテマラのソチョン、日本・伏見俊昭、マレーシアのング、そしてアメリカのノースタイン。スタート後伏見が取ったポジションは、ング、ブルガンと続く隊列の3番手。しかし最初の2周は伏見の外にノースタインが張り付き「競り」の状態となる。並びは残り4周を前に落ち着き、前からング、ブルガン、伏見、ノースタイン、ソチョンの順になった。ペーサー退避後の残り2周で伏見が動いた。ホーム手前で踏み出し主導権を握った伏見が後方を気にしながらの先行態勢を取る。しかし、さあこれから勝負と思った瞬間、今抜いたばかりのブルガン、ングが猛烈なスピードで巻き返しに出てきた。抜かれまいと必死に食い下がる伏見。しかし残り1周のホームでは前を取られ、外にはノースタインも上がってきてイン詰まりの状態。それでも伏見は最後まで粘るが最終4コーナーでは外のソチョンと車体が接触する不運もあり結局5着。伏見俊昭初のオリンピック・ケイリン挑戦は、1回戦・敗者復活戦敗退という結果に終わった。

<ケイリン決勝>

レースは、ケリー、ベイリーのオーストラリア勢が前を占め、その後ろにブルガン、ング、ウォルフ、エスケレドと並んで周回が進んだ。残り2周半、ペーサー退避のタイミングでレースが動いた。まずブルガンが牽制気味に番手の一つ上げる。後ろからはエスケレドが得意のカマシ気味の追い上げで一気に主導権を握る。残り2周となって並びは前からエスケレド、ケリー、ブルガン、ベイリー、ング、ウォルフ。そして残り1周半、ここで4番手のベイリーが一気に踏み出す。一度踏むと決めたらとことん踏む、これがベイリーの信条

だ。昨日までのスプリントレースと同様そのスピードは群を抜き、半周後には集団を1車身以上引き離して先頭に立った。後ろはエスケレドを頭に混戦状態。最終4コーナーではウォルフの押上げでブルガンが落車するアクシデントも発生するが、ただ一人ガムシャラに前を突っ走るベイリーには何の関わりもない出来事だった。優勝はオーストラリアのライアン・ベイリー。昨日のスプリントに続き2つ目の金メダル獲得となった。

この日行なわれたその他の種目。ポイントレース女子はロシアのスリュサレワが個人追抜の雪辱を果たして優勝した。またトラック200周回で争われたマディソンは、オーストラリアチームが接戦を制して優勝。これで今大会オーストラリアはロード1、トラック5の合計6つの金メダル獲得となった。

MTB・XC女子 優勝はノルウェーのダーレ 中込由香里は4周目でラップアウト

8月27日、マウンテンバイク・女子クロスカントリーが、アテネ市北東部の山麓・パルニサで行なわれた。松林が広がる傾斜地に設定されたコースは、スタート・ゴール地点を挟んで東西に大きく二つのループを描く1周6kmの周回コースを5周回。これにスタート時のみ周回する1.3kmのスタートループが追加されるため総距離にして31.3kmの闘いとなった。参加選手は24の国と地域から34名。日本からは中込由香里が出場した。

レースは序盤から激しいスピード展開となった。スタートと同時に二人のカナダ選手が飛び出し猛スピードで先行する。これを追って力のある選手が次から次に集団を抜け出し前を行く二

人を追う。1.3kmのスタートループを終え選手たちが次々にホームに戻る頃には、集団もグループすらもなくなり一人一人点々と選手が目の前を通り過ぎるのみとなっていた。

コースは最初に西側の第1ループを走るが、そこに設定された長い急坂に差し掛かる所で、3番手の位置にいたノルウェーのダーレが前の二人をかわして先頭に出た。今年これまでに5戦行なわれたワールドカップを全て優勝。当然UCIランキングもトップに立つダーレは、このオリンピックの大舞台でもその実力を遺憾なく発揮する。

パワーが必要な急坂も岩が露出したテクニカルな下りも、ただ一人抜き出したスピードで走る抜けるダーレ。1周目を終わった時点で後続のカナダ選手プレモントとの差は32秒。2周目を終わった時点には1分20秒に差を広げて完全な独走態勢を作った。

途中4周目にギアトラブルに見舞われ多少タイム差は詰められたものの、ダーレのパワーと集中はこの後も衰えることはなく、結局後続に59秒の差をつけて優勝。オリンピック金メダルの栄光を勝ち取った。

日本の中込は、予想以上のスピード展開の中健闘するが、結局4周目を終わった時点で規定タイムオーバーとなりラップアウトを余儀なくされた。

MTB・XC男子 優勝はフランスのアブサロン 竹谷賢二は6周目でラップアウト

8月28日、アテネ・オリンピック自転車競技の最終種目、マウンテンバイク・クロスカントリー男子が、アテネ近郊のパルニサ・マウンテンバイク会場で行なわれた。レースは昨日の女子と同じく山麓の松林に設定された1周6km

の周回コースを7周回。1.3kmのスタートループを含め総距離にして43.3kmの闘いとなった。

天候はいつも通りの晴れ。昨日の女子は気温35度を超える猛暑の中のレースだったが、今日



男子MTBの竹谷

は日差しは変わらず強いものの、時折強く吹く冷たい北風があるため昨日ほどの暑さを感じなかった。気温も最高で30度という予報が出ていた。

号砲と同時に最前列スタートの実績上位選手たちが一気に飛び出し先頭争いを演じる。スタートループ最初の登りに入って隊列は一列棒状。全員がさほどの距離をおかずに前に付き追い抜くチャンスを伺っている。竹谷も後方10番目あたりの位置で必死に前を追う。

隊列に変化があったのは1周目・第2ループの登り。ここまで常に前を走っていた5~6人の中からオランダのブレンジェンス、フランス・アブサロン、イタリア・ブイの3選手が抜け出しトップグループを形成する。そして2周目に入ってこの3人にスペインのエルミダ、フランスのペローが加わりトップグループは5人となる。

3周目に入るともう一人のフランス人マルチネスが追いつき一時トップグループは6人となるが、ペローとマルチネスは他の4選手に引き離されることが多く、実質的にはブレンジェンス、アブサロン、ブイ、エルミダの4選手主導でレースは中盤に入った。

そして4周目。ゴールに向けての駆け引きが始まった。まずエルミダが第1ループの登りで動いた。一気にスピードを上げ抜け出しを図る。これを追うのはアブサロン、ブレンジェンスの2人。ブイ、ペロー、マルチネスの3人はこの抜け出しに付いていくことが出来ない。そしてエルミダ、アブサロン、ブレンジェンスの3人は第2ループの下りで合流し新たなトップグループを形成、後続に36秒の差をつけて5周目に入った。

その5周目。今度はアブサロンが動いた。最初の登りで猛然とスパート。他



女子MTBの中込

の二人を引き離しにかかる。サドルから腰を浮かし力強いペダリングで急坂を登るアブサロン。エルミダ、ブレンジェンスも必死に追うがスピードが違ふ。あっという間に20秒近い差がついてしまった。4周目でエルミダの逃げをつぶし、その後ブレンジェンスの追い上げが成功したところで間髪を入れず強烈なアタックをかける。そのタイミングをアブサロンは逃さなかった。

このアタックを成功させたアブサロンは、5周目を終わった段階で後続に33秒の差をつけて完全な独走態勢に入った。そして6周目を終えるころには1分以上にその差を広げ勝利を確実なものとした。アブサロンのスピードは、最終周回に入っても衰えることはなく、結局1分のアドバンテージを維持したままゴール。母国から駆けつけた大勢のサポーターとともにその勝利を祝った。またフランスにとっては、今大会自転車競技ではロード、トラック通して初の金メダル獲得となった。

日本の竹谷は完走ペースで終盤まで健闘したが、6周目に転倒するアクシデントでタイムを落とし、結局1周を残して規定タイムに30秒届かず無念のラップアウトとなった。(JCF特別広報員 伴)

[競技結果]

<ロードレース>

男子個人ロードレース (224.4km)

1	BETTINI Paolo	ITA	5:41:44
2	PAULINHO Sergio	POR	5:41:45
3	MERCKX Axel	BEL	5:41:52
57	田代 恭崇	JPN	5:50:35
	鈴木 真理	JPN	DNF

女子個人ロードレース (118.8km)

1	CARRIGAN Sara	AUS	3:24:24
2	ARNDT Judith	GER	3:24:31
3	SLYUSAREVA Olga	RUS	3:25:03
20	沖 美穂	JPN	3:25:42
41	唐見実世子	JPN	3:30:30

男子個人タイムトライアル (48.0km)

1	HAMILTON Tyler	USA	57:31.74
2	EKIMOV Viatcheslav	RUS	57:50.58
3	JULICH Bobby	USA	57:58.19

女子個人タイムトライアル (24.0km)

1	ZIJLAARD-van MOORSEL Leontien	NED	31:11.53
2	DEMET-BARRY Deirdre	USA	31:35.26
3	THUERIG Karin	SUI	31:54.89

<トラックレース>

男子1kmタイムトライアル

1	HOY Chris	GBR	1:00.711
2	TOURNANT Arnaud	FRA	1:00.896
3	NIMKE Stefan	GER	1:01.186

男子スプリント

1	BAYLEY Ryan	AUS	
2	BOS Theo	NED	
3	WOLFF Rene	GER	
	長塚 智広	JPN	1回戦DNS

男子4km個人追抜競走

1	WIGGINS Bradley	GBR	4:16.304
2	McGEE Brad	AUS	4:20.436
3	ESCOBAR Sergi	ESP	4:17.947

男子ケリ

1	BAYLEY yan	AUS	
2	ESCUREDO Jose	ESP	
3	KELLY Shane	AUS	
	伏見 俊昭	JPN	1回戦敗退

男子ホィットレース (40km)

1	IGNATYEV Mikhail	RUS	93 p
2	LLANERAS Joan	ESP	82 p
3	FULST Guido	GER	79 p
16	飯島 誠	JPN	13 p

男子マフィン (50km)

1	AUS	22 p
2	SUI	15 p
3	GBR	12 p

男子チームスプリント

1	GER FIEDLER・NIMKE・WOLFF	43:980
2	日本 伏見・井上・長塚	44.246
3	FRA BOURGAIN・GANE・TOURNANT	44.359

男子4km団体追抜競走

1	AUS	3:58.233
2	GBR	4:01.760
3	ESP	4:05.523

女子500mタイムトライアル

1	MEARES Anna	AUS	33.952
2	JIANG Yonghua	CHN	34.112

3	TSYLINSKAYA Natallia	BLR	34.167
10	大菅小百合	JPN	35.045

女子スプリント

1	MUENZER Lori-Ann	CAN	
2	ABASSOVA Tamilla	RUS	
3	MEARES Anna	AUS	

女子3km個人追抜競走

1	ULMER Sarah	NZL	3:24.537
2	MACTIER Katie	AUS	3:27.650
3	ZIJLAARD-van MOORSEL Leontien	NED	3:27.037

女子ホィットレース (25km)

1	SLYUSAREVA Olga	RUS	20 p
2	GUERRERO MENDEZ Belem	MEX	14 p
3	CALLE WILLIAMS Maria Luisa	COL	12 p

<マウンテンバイク>

男子クロスカトリ (43.3km)

1	ABSALON Julien	FRA	2:15:02
2	HERMIDA Jose Antonio	ESP	2:16:02
3	BRENTJENS Bart	NED	2:17:05
38	竹谷 賢二	JPN	-1lap

女子クロスカトリ (31.3km)

1	DAHLE Gunn-Rita	NOR	1:56:51
2	PREMONT Marie-Helene	CAN	1:57:50
3	SPITZ Sabine	GER	1:59:21
22	中込由香里	JPN	-1lap



(C PHOTO KISHIMOTO)



日本新記録

チーム・スプリント (250m × 3)

男子ジュニア 47 秒 110 日本 (大西 祐、柴崎 淳、菅田 壺道) 2004/8/1 アメリカ・ロサンゼルス

500m

女子シニア 35 秒 045 大菅 小百合 (長野・三協精機) 2004/8/20 ギリシャ・アテネ

チーム・スプリント (250m × 3)

男子プロ 44 秒 081 日本 (長塚 智広、伏見 俊昭、井上 昌己) 2004/8/21 ギリシャ・アテネ

第39回全国都道府県対抗自転車競技大会



団抜優勝の岐阜



チームスプリント優勝の香川



成年ポイント優勝の行成



少年ポイントレース決勝。キャップ2番が優勝の土屋



女子ポイントレース1位の森本(左)と2位の太刀川



スプリント1位の柴崎(左)と2位の高橋



成年1kmTT1位の在本



少年1kmTT1位の網谷



女子500m優勝の太刀川

[競技結果]

(8/22-24 岡山・英田、玉野競輪場400m)

< 男子 >

男子個人ロードレース (132.4km)

1	行成 秀人	岡山	3:04:28
2	西谷 雅史	東京	3:04:30
3	棟久 明博	山口	3:04:30
4	菅原 勝良	埼玉	3:04:49
5	鈴木 謙一	静岡	3:05:03
6	長野 耕治	愛媛	3:05:34
7	宮腰 圭祐	福井	3:05:50
8	中村 誠	石川	3:06:00
9	村出真一朗	鳥取	3:06:08
10	谷垣 雄基	京都	3:06:23

成年男子1kmタイムトライアル

1	在本 直樹	岡山	1:07.686
2	佐藤 幸治	秋分	1:08.627
3	佐藤 昇吾	大分	1:08.984
4	笹倉 慎也	富山	1:09.414
5	西村 光太	三重	1:10.002
6	屋良 朝春	沖縄	1:10.477

少年男子1kmタイムトライアル

1	網谷 竜次	香川	1:07.800
2	菅田 壺道	宮城	1:07.931
3	神山 拓弥	栃木	1:08.874
4	山田 隼司	岐阜	1:09.750
5	本間 慎吾	新潟	1:10.031
6	瀧野 勝太	群馬	1:10.201

男子スプリント

1	柴崎 淳	三重	
2	高橋 紀史	秋田	
3	山下 渡	茨城	
4	寺田 信彦	大分	
5	三澤 康人	宮城	
6	安藤 武史	神奈川	

成年男子ポイントレース (30km)

1	行成 秀人	岡山	45 p
2	鈴木 謙一	静岡	43 p
3	武藤 大輔	高知	39 p
4	村上 純平	山形	37 p

5	森 真博	香川	34 p
6	中島 康晴	福井	33 p

少年男子ポイントレース (24km)

1	土屋 壮登	埼玉	52 p
2	森本 隆太	和歌山	42 p
3	奥田 賢司	奈良	40 p
4	数馬 明展	鳥取	29 p
5	池田 諒	群馬	26 p
6	依田 明久	岐阜	13 p

男子チームスプリント

1	香川 大西・網谷・矢野	1:18.515
2	三重 柴崎淳・柴崎俊・西村	1:18.737
3	大分 佐藤昇・寺田・松田	1:20.281
4	新潟 本間・原田・岡村	1:22.744
5	秋田 佐藤幸・高橋公・高橋紀	1:20.460
6	岡山 吉田・在本・赤澤	1:21.178

男子4km団体追抜競走

1	岐阜 依田・川西・岸本・山田	4:37.608
2	福井 宮腰・山本・廣木・青山	4:45.614
3	福島 房州・中村・我妻・田崎	4:36.631
4	京都 柏原・谷垣・河原林・太田	4:40.355
5	奈良 吉田・奥田・和田・安福	4:43.669
6	福岡 宮原・高倉・稻吉・八尋	4:45.815

男子総合成績

1	香川	38 p
2	岡山	33 p
3	三重	33 p

< 女子 >

女子個人ロードレース (70.4km)

1	森本 朱美	鳥取	1:55:19
2	矢沢みつみ	山梨	1:57:56
3	栗原 瞳	埼玉	1:59:39
4	和田見里美	鳥取	2:06:49
5	堀 友紀代	神奈川	2:06:56
6	岡 希美	群馬	2:07:06
7	大森 智子	京都	2:07:13
8	河端あゆみ	鳥取	2:07:45
9	川又 千裕	鹿児島	2:07:52
10	三井 由香	兵庫	2:12:09

女子500mタイムトライアル

1	太刀川麻也 茨城	37.533
2	岡 希美 群馬	38.656
3	川満 佳子 熊本	38.700
4	牛島 愛 熊本	39.548
5	佐藤 美香 大分	39.976
6	早坂ありさ 宮城	41.025

女子ポイントレース (16km)

1	森本 朱美	鳥取	49 p
2	太刀川麻也	茨城	47 p
3	堀 友紀代	神奈川	9 p
4	和田見里美	鳥取	8 p
5	牛島 愛	熊本	7 p
6	岸本紗也加	熊本	4 p

女子総合成績

1	鳥取	31 p
2	熊本	19 p
3	茨城	15 p



文部科学大臣杯 第60回全日本大学対抗選手権



1kmTTとスプリント2冠の川村



団抜優勝の法政大学



チームスプリント優勝の順天堂大学



タンデムスプリント優勝の東北学院大学

[競技結果]

(8/26-28 滋賀・大津びわこ競輪場500m)

男子1kmタイムトライアル

- 1 川村 崇 東京 早稲田大学 1:06.195
- 2 伊藤 太一 山梨 日本大学 1:07.169
- 3 西村 尚文 鹿児島 法政大学 1:07.550
- 4 屋良 朝春 沖縄 日本大学 1:07.619
- 5 黒木 裕介 宮崎 法政大学 1:07.684
- 6 川崎 大慈 熊本 順天堂大学 1:08.008

男子スプリント

- 1 川村 崇 東京 早稲田大学
- 2 中村 健志 熊本 日本大学
- 3 屋良 朝春 沖縄 日本大学
- 4 柴崎 俊光 三重 中央大学
- 5 前田 義和 鹿児島 鹿屋体育大学
- 6 西村 光太 三重 早稲田大学

男子4km個人追抜競走

- 1 黒木 裕介 宮崎 法政大学 4:47.643

- 2 西村 行貴 熊本 日本大学 4:52.850
- 3 太田 貴明 京都 京都産業大 4:56.539
- 4 佐藤 佑一 岩手 順天堂大学 4:58.295
- 5 根本 哲吏 秋田 明治大学 4:56.200
- 6 蛭名 洋平 青森 東北学院大 4:58.330

男子ケリ

- 1 鈴木雄一朗 山梨 日本大学
- 2 柴崎 俊光 三重 中央大学
- 3 川崎 大慈 熊本 順天堂大学
- 4 小堺 浩二 石川 京都産業大学
- 5 菅井 寛之 山形 法政大学
- 6 高森 旭二 神奈川 明治大学

男子ホールド

- 1 盛 一大 茨城 日本大学 36 p
- 2 柴田 祐也 岐阜 法政大学 26 p
- 3 守澤 太志 秋田 明治大学 26 p
- 4 佐藤 佑一 岩手 順天堂大学 23 p

- 5 中島 康晴 福井 鹿屋体育大学 20 p
- 6 櫻井 透 神奈川 立命館大学 18 p

男子タッグスプリント

- 1 東北学院大学 石崎・牧野
- 2 順天堂大学 戸田・野口
- 3 日本大学 前田・城
- 4 法政大学 佐野・幅
- 5 中央大学 本田・鬼塚
- 6 早稲田大学 鈴木・身崎

男子チームスプリント

- 1 順天堂大学 佐藤・佐川・川崎 1:39.919
- 2 東北学院大 石崎・牧野・和田 1:43.274
- 3 京都産業大 小堺・鈴木・清水 1:41.766
- 4 北見大学 久間・園田・三嶋 1:44.815
- 5 鹿屋体育大 瀬尾・廣田・村上 1:44.001
- 6 立教大学 稲子・木村・上崎 1:44.105



500mTT優勝の遠藤



女子スプリント優勝の篠崎

男子ポイントレース決勝。1位の盛(左)と3位の守澤



ケイリン予選1組
キャップ3の鈴木がこの種目優勝。



個人追抜優勝の黒木

ロードレース 8/29 京都・美山町)

男子個人ロードレース(134.4km)

- 1 松村 光浩 和歌山 日本大学 3:16:03
- 2 島田 真琴 東京 法政大学 3:16:03
- 3 高橋 晋司 京都 京都大学 3:16:04
- 4 細川 倫央 京都 京都大学 3:16:08
- 5 佐々木正美 青森 日本大学 3:16:10
- 6 辻 善光 京都 立命館大学 3:16:28
- 7 盛 一大 茨城 日本大学 3:16:29
- 8 守澤 太志 秋田 明治大学 3:16:29
- 9 阿部 徹也 東京 東京工業大 3:16:30
- 10 中島 康晴 福井 鹿屋体育大 3:16:30

女子個人ロードレース(33.6km)

- 1 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 1:00.13
- 2 永田 萌子 大分 明治大学 1:00.13
- 3 許斐真由子 鹿児島 鹿屋体育大 1:00.24
- 4 松永 舞美 香川 法政大学 1:00.33
- 5 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 1:02.07
- 6 石井 寛子 埼玉 明治大学 1:03.04
- 7 玉城 さち 沖縄 鹿屋体育大 1:03.20
- 8 小淵 千恵 群馬 順天堂大学 1:03.46
- 9 佐藤紗矢香 北海道 北海道大学 1:03.52
- 10 岡田由佳子 愛知 順天堂大学 1:04.57

男子団体総合

- 1 日本大93p 2 法政大58p 3 順天堂大37p

女子団体総合

- 1 鹿屋体大21p 2 明治大17p 3 順天堂大14p

男子4km団体追抜競走

- 1 法政大学 片山・柴田・明珍・黒木 4:32.709
- 2 日本大学 明珍・伊藤・吉田・青木 4:34.091
- 3 明治大学 立里・仲村・根本・守澤 4:40.675
- 4 朝日大学 中島・増田・湯坐・若槻 4:45.001
- 5 中央大学 三浦・小林・高島・播正 4:36.450
- 6 早稲田大 川村・吉次・西村・宮原 4:42.835

女子500mタイムトライアル

- 1 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学 37.062
- 2 佃 咲江 北海道 北海学園北見 38.008
- 3 篠崎 新純 千葉 明治大学 38.159
- 4 石井 寛子 埼玉 明治大学 39.731
- 5 沼部早紀子 栃木 順天堂大学 40.369
- 6 平中あゆ美 岩手 北海道浅井学 40.434

女子スプリント

- 1 篠崎 新純 千葉 明治大学
- 2 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学

3 佃 咲江 北海道 北海学園北見大学

- 4 石井 寛子 埼玉 明治大学
- 5 沼部早紀子 栃木 順天堂大学
- 6 埋田 麻衣 大分 鹿屋体育大学

女子3km個人追抜競走

- 1 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 4:15.351
- 2 松永 舞美 香川 法政大学 4:16.813
- 3 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 4:07.898
- 4 永田 萌子 大分 明治大学 4:12.094
- 5 許斐真由子 鹿児島 鹿屋体育大 4:14.060
- 6 青木千江子 群馬 育英短期大 4:15.685

女子ポイントレース

- op 佃 咲江 北海道 北海学園北見大 25 p
- 1 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 17 p
 - 2 松永 舞美 香川 法政大学 14 p
 - 3 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大学 11 p
 - 4 石井 寛子 埼玉 明治大学 5 p
 - 5 永田 萌子 大分 明治大学 4 p

個人ロードのフィニッシュ

平成16年度 全国高等学校総合体育大会



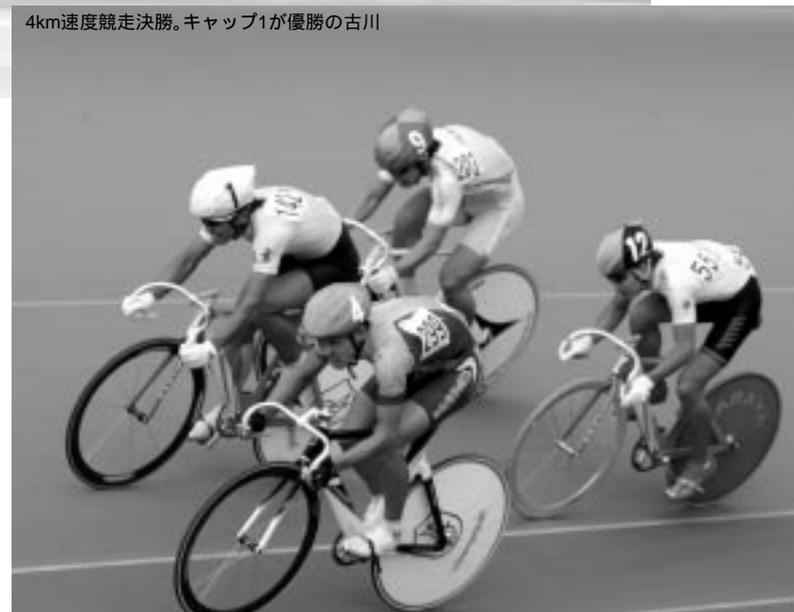
1位 森本

2位 田中

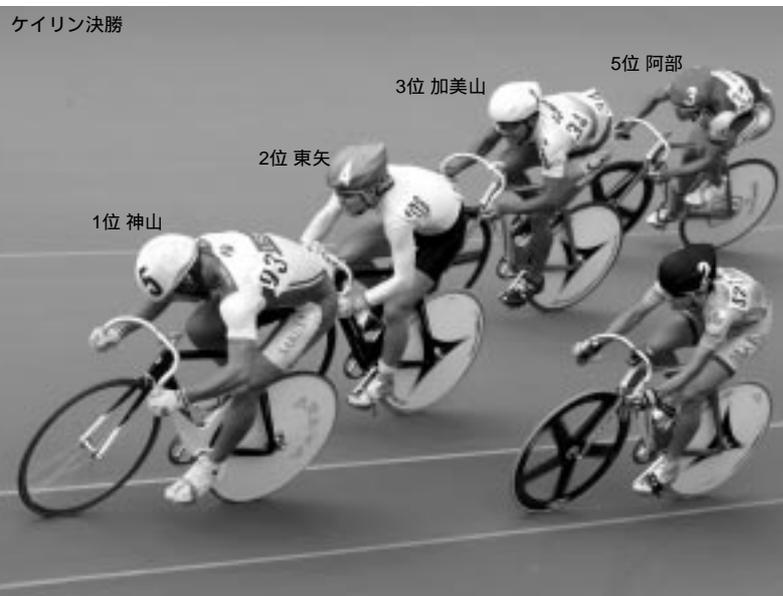
3位 三河井



個人ロードTT優勝の土屋



4km速度競走決勝。キャップ1が優勝の古川



ケイリン決勝

1位 神山

2位 東矢

3位 加美山

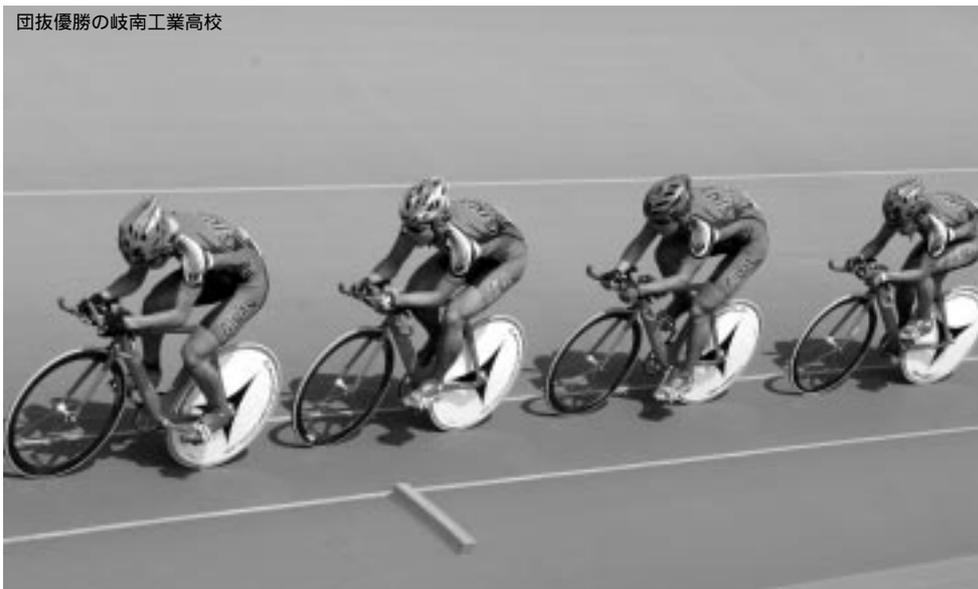
5位 阿部



チームスプリント優勝の仙台商業高校



スプリント決勝、1位柴崎(左)と2位岸沢



団抜優勝の岐南工業高校



エリミネーション
3位桐生 1位中山 2位松原



個抜優勝の房州



1kmTT優勝の菅田

[競技結果]

(8/8-11 広島・三次、広島競輪場400m)

個人ロードレース(108.5km)

- 1 森本 隆太 和歌山 紀北工業高 2:55:48
- 2 田中 武 香川 石田高校 2:55:48
- 3 三河井 翼 京都 北桑田高校 2:55:48
- 4 村上 幸完 大阪 大産大付高 2:55:48
- 5 佐野 佑一 徳島 徳島商高校 2:55:48
- 6 秋山 寛之 東京 多摩高校 2:55:48
- 7 星 幸太郎 宮城 古川学園高 2:55:48
- 8 岩本 力哉 大分 日出暘谷高 2:55:48
- 9 渡辺 大輔 大分 別府商高校 2:55:49
- 10 池田 諒 群馬 前橋育英高 2:55:49

個人ロードタイムトライアル(22.1km)

- 1 土屋 壮登 埼玉 川越工業高 31:00.73
- 2 奥田 賢司 奈良 榛原高校 31:18.29
- 3 小川 達也 静岡 修善寺工高 31:39.37
- 4 三浦 健正 青森 八戸工業高 31:59.02
- 5 角 令央奈 兵庫 日生学園三 32:13.06
- 6 我妻 敏 福島 学法石川高 32:14.73
- 7 房州 輝也 福島 平工業高校 32:19.86
- 8 山本 雅之 奈良 北大和高校 32:25.67
- 9 久保田郁也 静岡 静岡北高校 32:36.62
- 10 本間 慎吾 新潟 吉田高校 32:47.36

1kmタイムトライアル

- 1 菅田 壱道 宮城 仙台商業高 1:06.859
- 2 網谷 竜次 香川 高松工芸高 1:08.420
- 3 本間 慎吾 新潟 吉田高校 1:09.328
- 4 大西 祐 香川 高松工高専 1:09.330
- 5 我妻 敏 福島 学法石川高 1:09.457
- 6 片折 亮太 埼玉 鳩山高校 1:09.494

スプリント

- 1 柴崎 淳 三重 朝明高校
- 2 岸沢 賢太 埼玉 鳩山高校
- 3 高橋 紀史 秋田 六郷高校
- 4 原田 泰志 新潟 燕工業高校
- 5 中園 朋亨 福岡 久留米工大付属高校
- 6 山田 隼司 岐阜 大垣日大高校

3km個人追抜競走

- 1 房州 輝也 福島 平工業高校 3:38.475
- 2 奥田 賢司 奈良 榛原高校 3:41.195
- 3 川西 貴之 岐阜 岐南工業高 3:38.918
- 4 田崎 裕也 福島 学法石川高 3:44.067
- 5 稲吉 悠大 福岡 久工大附高 3:42.446
- 6 辻中 国宏 京都 北桑田高校 3:42.724

4km速度競走

- 1 古川 宗行 東京 八王子工高 4:44.90
- 2 石倉 龍二 和歌山 和歌山北高校
- 3 老田 龍海 奈良 北大和高校
- 4 白川 巧 大分 日出暘谷高校
- 5 武田 和也 奈良 榛原高校
- 6 藤田 祐哉 福井 春江工業高校

ケイリン

- 1 神山 拓弥 栃木 作新学院高校
- 2 東矢 昇太 熊本 東海大付属第二高校
- 3 加美山隆行 宮城 仙台商業高校
- 4 紅谷 晃二 香川 高松工芸高校
- 5 阿部 力也 宮城 東北高校
- 6 佐藤 寿起 山形 山形電波工業高校

エリミネーション

- 1 中山 哲之 香川 石田高校

- 2 松原 健太 岡山 水島工業高校
- 3 桐生 順平 福島 学法石川高校
- 4 篠原 力也 香川 笠田高校
- 5 岩崎 庄平 京都 北桑田高校
- 6 相川 将 埼玉 川越工業高校

ポイントレース

- 1 遠藤 邦明 宮城 東北高校 24 p
- 2 大庭 伸也 宮城 仙台商業高校 18 p
- 3 八尋 翔平 福岡 久留米工大附高 16 p
- 4 漆澤 均 岩手 紫波総合高校 11 p
- 5 依田 明久 岐阜 岐南工業高校 10 p
- 6 浅利雄二郎 埼玉 川越工業高校 9 p

チームポイントレース

- 1 仙台商高 菅田・加美山・櫻井 1:18.924
- 2 高松工芸 網谷・紅谷・鷄川 1:20.321
- 3 鳩山高校 岸沢・片折・一戸 1:19.726
- 4 京葉工高 久保・中川・光富 1:20.169
- 5 和歌山北 濱地・石倉・中野 1:21.287
- 6 古川工高 三浦・相澤・村上 1:21.310

4km団体追抜競走

- 1 岐南工高 依田・川西・岸本・山田裕 4:33.214
- 2 学法石川 中村・関根崇・我妻・田崎 4:35.660
- 3 榛原高校 吉田・奥田・和田・安福 4:37.232
- 4 平工業高 佐藤康・房州・佐伯・渡邊 4:38.080
- 5 紫波総合 下川・漆澤・菅原・兼平 4:43.570
- 6 科学技術 山本・市川・青山・廣木 4:44.360

総合成績

- 1 仙台商業高校 宮 城 32 p
- 2 学法石川高校 福 島 26 p
- 3 榛原高校 奈 良 24 p

第35回全日本実業団選手権・第38回全日本実業団対抗ロードレース



ケイリン決勝
キャップ6が優勝の大木



エリミネーション1位秋田(左)と途中1人逃げたが2位に終わった三船



団抜優勝の愛三工業



チームスプリント優勝のZ-1 MEDALIST



マディソン優勝の愛三工業



500mTT優勝の太刀川



ロードBR1優勝の野寺(左)と真鍋



女子ロード優勝の西(右)

- 3 村中恵美子 G・S・キョ・ミザリ 4:16.257
- 4 石井 寛子 パイナルズ'90 4:19.000
- 5 小野山恵美 イクップ・ル・シグ 4:24.071
- 6 中山 朋子 スマタハ・初ハ・ル 4:24.270

女子エリミネーション

- 1 太刀川麻也 スパ・Kアスリートズ
- 2 石井 寛子 パイナルズ'90
- 3 村中恵美子 G・S・キョ・ミザリ
- 4 中山 朋子 スマタハ・初ハ・ル・イズミ
- 5 森本 朱美 スマタハ・初ハ・ル・イズミ
- 6 栗原 瞳 ALPHAWK

第38回全日本実業団対抗ロードレース
(9/5 兵庫・播磨 7.8km/周)

BR-1 (117km)

- 1 野寺 秀徳 シェル・シグ 2:51:39.2
- 2 真鍋 和幸 ミヤタハ・ル・シグ 2:51:39.3
- 3 新保 光起 愛三工業レーシング 2:51:40.4
- 4 柿沼 章 村ノCCD 2:51:41.0
- 5 今西 尚志 シェル・シグ 2:51:43.1
- 6 秋田 謙 愛三工業レーシング 2:51:46.3
- 7 狩野 智也 シェル・シグ 2:51:49.6
- 8 橋川 健 村ノCCD 2:52:21.7
- 9 土井 雪広 シェル・シグ 2:52:23.3
- 10 別府 匠 愛三工業レーシング 2:52:40.7

BR-1団体総合

- 1 シェル・シグ 野寺・今西・狩野 13 p
- 2 愛三工業 新保・秋田・別府 19 p
- 3 村ノCCD 柿沼・橋川・広瀬 24 p

BR-2 (78km)

- 1 岩本 晋也 Z-1MEDALIST 2:01:24.1
- 2 楨 広貴 GIANT/T-serv. 2:01:24.3
- 3 須藤 吉公 なるしまフルド 2:01:24.5

[競技結果]

第35回全日本実業団選手権
(9/3-4 兵庫・明石400m)

男子1kmタイムトライアル

- 1 水澤 耕一 スマタハ・初ハ・ル 1:07.951
- 2 在本 直樹 Z-1MEDALIST 1:08.353
- 3 矢野 昌彦 栃木クラブ 1:09.339
- 4 矢野 光浩 サイクルクラブ FET 1:10.863
- 5 篠原 英雄 マリゴ・ールド T.T 1:11.091
- 6 大村 慶二 チームガッツ 1:11.265

男子スプリント

- 1 鈴木 英介 マツダ・エー・チア・アリアケ
- 2 友定 祐己 Z-1MEDALIST.RC
- 3 坂本 匡洋 ハ・ロスタハ・ル・スキノ
- 4 松村 友和 ハ・ロスタハ・ル・スキノ
- 5 河村 雅章 パイナルズ'90
- 6 矢野 昌彦 栃木クラブ

男子4km個人追抜競走

- 1 坂口 博 愛三工業レーシング 5:02.179
- 2 西谷 泰治 愛三工業レーシング 5:02.937
- 3 飯島 誠 スマタハ・初ハ・ル 5:06.460
- 4 行成 秀人 Z-1MEDALIST 5:07.607
- 5 三船 雅彦 ミヤタハ・ル・シグ 5:00.780
- 6 岡田 将太 マツダ・エー・チア 5:04.526

男子ケイリン

- 1 大木 卓也 スマタハ・初ハ・ル・イズミ
- 2 河村 雅章 パイナルズ'90
- 3 西尾 孝政 デュロ
- 4 吉田 康則 Z-1MEDALIST.RC
- 5 北川 光治 ミノルレーシング
- 6 大村 慶二 チームガッツ

男子エリミネーション

- 1 秋田 謙 愛三工業レーシング チーム
- 2 三船 雅彦 ミヤタハ・ル・シグ チーム
- 3 北川 光治 ミノルレーシング
- 4 仲松 勝太 チームけんしん
- 5 仲松 太郎 チームけんしん
- 6 岩本 晋也 Z-1MEDALIST.RC

男子ホクトレース (30km)

- 1 飯島 誠 スマタハ・初ハ・ル・イズミ 48 p
- 2 吉井 功治 アミハ・イタル LASレーシング 33 p
- 3 綾部 勇成 ミヤタハ・ル・シグ チーム 16 p
- 4 行成 秀人 Z-1MEDALIST.RC 14 p
- 5 西谷 泰治 愛三工業レーシング チーム 12 p
- 6 鈴木 謙一 マツダ・エー・チア ARIAKE 7 p

男子マフィソン

- 1 愛三工業 西谷・坂口 23 p
- 2 スマタハ・初ハ・ル 水澤・飯島 (-1) 12 p
- 3 エフ・オット 武内・中里 (-2) 8 p
- 4 ナカノ・ワス 藤田・渡邊 (-2) 4 p
- 5 アミハ・イタル 岡部・浦門 (-2) 4 p

男子チームスプリント

- 1 Z-1MEDALIST 吉田・在本・友定 1:19.268
- 2 スマタハ・初ハ・ル 水澤・飯野・大木 1:20.240
- 3 デュロ 安藤・西尾・岡村 1:20.785
- 4 ハ・ロスタハ・ル 丸山・多田・山根 1:21.321
- 5 マリゴ・ールド 水木・野本・篠原 1:21.310
- 6 けんしん 仲松太・仲松勝・喜納 1:23.730

男子4km団体追抜競走

- 1 愛三工業 西谷・坂口・郡山・秋田 4:29.501
- 2 アミハ・イタル 吉井・柳澤・三木・工藤 4:41.510
- 3 ミヤタハ・ル 三船・中川・綾部・石田 4:43.396
- 4 マツダ・エー・チア 大塚・鈴木・岡田・福留 4:46.201
- 5 マリゴ・ールド 武藤・山田・野本・矢野 4:46.351
- 6 スマタハ・初ハ・ル 水澤・飯島・浅野・林 4:47.203

女子500mタイムトライアル

- 1 太刀川麻也 スパ・Kアスリートズ 37.735
- 2 川満 佳子 岩井商会レーシング 39.221
- 3 石井 寛子 パイナルズ'90 40.300
- 4 栗原 瞳 ALPHAWK 40.683
- 5 門脇真由美 チームロケット 40.753
- 6 三井 由香 ハ・ロスタハ・ル・スキノ 41.204

女子3km個人追抜競走

- 1 大塚 沙織 キャットレーシング 4:14.530
- 2 森本 朱美 スマタハ・初ハ・ル 4:14.945

2004トラックジュニア世界選手権

<男子チームスプリント初の銀メダルを獲得>

チームスプリント銀メダルの3選手



とも敗退してしまった。

ポイントレースでは昨年6位の西村も力及ばず敗退、団体追抜はアジア選手権メンバー3名に大西を加え臨んだが34秒台の平凡タイム。

時差の影響が大きく、今ひとつ集中出来ずに惨敗状態であったが、最終日を迎え、柴崎・菅田・大西で臨んだチームス

プリントが予選6位、1回戦ではタイムを大きく伸ばし2位。決勝でドイツチームに負けたが日本初の団体種目銀メダルであった。

本年ジュニアは合宿(CSC250m)から、日韓対抗、韓国合宿、アジア選手権、JOCカップ最終選考、直前合宿を経て大会に臨んだが、継続的に世界でメダルを狙うためにはジュニアからエリートまでの一環指導体制ビジョンを早期に確立させ実行することと考える。

(監督 折本 裕樹)

[競技結果] (日本参加種目のみ)

男子1kmタイムトライアル

1	LEVY Maximilian	GER	1:05.307
2	DONG JIN Kang	KOR	1:05.751
3	CABROL David	FRA	1:06.150
6	菅田 壱道	JPN	1:06.842
12	大西 祐	JPN	1:08.193

男子スプリント

1	PERKINS Shane	AUS
---	---------------	-----

2	BLATCHFORD Michael	USA
3	LEVY Maximilian	GER
	高橋 紀史	JPN 予選敗退
	柴崎 淳	JPN 予選敗退

男子3km個人追抜競走

1	FORD Michael	AUS	3:21.802
2	DAMROW Sascha	GER	3:30.453
3	GRETSCH Patrick	GER	3:22.770
18	西村 光太	JPN	3:38.669
25	房州 輝也	JPN	3:42.243

男子ケイリン

1	PERKINS Shane	AUS
2	THORSEN Daniel	AUS
3	KANDA Francesco	ITA
	高橋 紀史	JPN 1回戦敗退
	柴崎 淳	JPN 1回戦敗退

男子スクラッチ (10km)

1	THOMAS Geraint	GBR
2	MANSILLA Luis	CHI
3	PLIUSCHIN Alexandru	MDA
8	房州 輝也	JPN

男子ポイントレース (25km)

1	BARTH Marcel	GER	38 p
2	OLMAN Miles	AUS	36 p
3	BESSON Jérémy	FRA	32 p
12	西村 光太	JPN	1 p

男子チームスプリント

1	GER	46.284
2	日本 大西・柴崎・菅田	47.130
3	AUS	46.861

男子4km団体追抜競走

1	AUS	4:10.439
2	GER	4:20.001
3	RUS	4:18.301
9	日本 房州・西村・大西・菅田	4:34.579



7月28日から8月1日までアメリカ・ロサンゼルス市で世界ジュニアトラック選手権大会が開催された。日本からは6名の男子選手が参加した。

大会初日3km個人追抜競走出場の房州輝也(平工高)西村光太(早大)は目標ラップを刻むことができず力を出し切れなかった。世界トップとの差20秒は大きな課題となった。これは団体追抜も同様である。

午後から1kmタイムトライアル、スクラッチが行われ、菅田壱道(仙台商高)06秒台で6位、大西祐(高松高専)は08秒台と平凡なタイムであった。

大会2日目以降は、房州がスクラッチに出場、6名に1ラップされたものの、ゴール勝負2位で8位となった。

スプリント出場の柴崎(朝明高)高橋(六郷高)は予選19、20位敗退、ケイリンにおいても両名は1回戦、敗者復活戦

Exciting Cycle Race

スポーツの歓声を
もっと聞きたい

日本道路株式会社

本社：〒105-0004 東京都港区新橋1-6-5
TEL: 03-3571-3940 FAX: 03-3571-8836
<http://www.nipponroad.co.jp>

自転車競技場・競輪場の設計・施工

第36回 ツール・ド・ラビティビ

7月19日(月)【プロローグ】

メインステージ上でのチーム紹介終了後、2.2kmのコースを7周するプロローグの始まり。日本の6人は、ハイスピードでの展開や他国選手の落車等にも動揺することなく無事ゴール。選手個々の闘争心や集中力を垣間見ることができ、明日のチームロードへの意欲を感じることができた。

7月20日(火)【第1ステージ】

あいにくの小雨模様となったが、チームタイムトライアルのスタート前には天候も回復し、各チーム4分間隔でスタート。1ケタ順位を目標にしていた日本チームは、27チーム中19番目スタート。時速50km弱の平均スピードを維持し10位となる。各々完全燃焼し、ベストを尽くした走りに、第2ステージからの期待が膨らんだ。

【第2ステージ】

夜7時スタートのクリテリウムは、やや肌寒い気温でのレースとなった。

日本選手の中でも島田・石井・飯塚の3選手は序盤から積極的にエスケープ可能な集団前方に位置したものの幾度かのエスケープ集団には入ることができず、メイン集団内での走行にとどまった。

結果はラスト3周で3名のトップグループが形成され、日本選手6名は大きな集団でのゴールとなった。

7月21日(水)【第3ステージ】

直射日光で暑く感じる汗ばむ気温となった第3ステージは、ゴールのバルドーから約100km離れたロウン・ノランダ町からのスタート。30km過ぎに設定された2回目の山岳ポイント争いで石井を含む5名の選手が集団を引き離し、1ポイントを獲得。その後集団に吸収されたが、島田を含む4人のエスケープが成功し先頭グループを形成。

ボーナスタイムが設定された50km・60km地点のスプリントで2地点とも2位通過した島田がボーナス4秒を獲得し積極的な走りを見せた。しかし、このステージでは残念なことに、スタート直後クラッシュに見舞われた根本がパンク。機材交換後スタートしたが、集団からひとり取り残された走行中に不運

にも2度目のパンク。機材交換ができず最終的に失格となってしまった。

また、ゴール手前で落車した石井が集団から離れゴールとなった。

7月22日(木)【第4ステージ】

ラシテッドロー・鉱山の地底約80m地点からスタートする個人タイムトライアルが午前中に行われ、大園が27位、個人総合で32位につけ健闘した。島田は前日までの疲労が影響したのか35位。しかし、個人総合では37位と何とか踏みとどまった。また、他の3選手も22分台で無事完走し、チーム総合も前日より上がり9位に躍進した。このステージの結果を励みに、守りに入らず次ステージからは誰もがより積極的に先頭グループに位置できるようにとチーム内で気持ちを引き締めた。

【第5ステージ】

セナトレ町を18時にスタートするゴールまで約80kmの第5ステージ。前半から積極的にアタックする選手がエスケープを成功させ、第1集団が14人で編成されたが、その中に日本選手はいない。各チームの個人総合上位の選手が第1集団に入っていたためか、終盤までタイム差を縮めることができずゴールへ。総合で第13位にまで落とす結果となってしまった。

7月23日(金)【第6ステージ】

アモスをスタートする約120kmの第6ステージ。スタート後約10km地点で島田がパンクし後退する中、メイン集団ではアタックが繰り返されハイスピードでレースが動く。レース半ばでは大落車が発生し、飯塚が巻き込まれるが何とか集団復帰。

このステージの2回目の山岳ポイント争いで石井が集団をコントロールし先行逃げ切りで見事5ポイントを獲得。ベルギーやフランス等の選手を振り切った彼の熱いもがきは、日本ジュニアの底力を見せつけた結果である。最終的には、島田を除く4名の選手を含む大集団でのゴール勝負で幕を閉じた。

7月24日(土)【第7ステージ】

プレサックからバルドーまでの102kmの第7ステージ。この日の日本チームの最大の目標はチーム総合で2

秒差のオンタリオチームを上回ることだった。山岳ポイントのある前半はこの日までに6点で4位につけている石井が積極的にポイントを獲得すること、次に中盤のタイムボーナスを誰かが必ず獲得すること、がその大きな柱である。

しかし、実際はポイント争いで石井が集団に取り残されたり、タイムボーナスが与えられるスプリント勝負で島田が4位通過にとどまったりするなど、思うような結果には繋がらず最終的に大集団でゴール。前日の第6ステージで不完全燃焼に終わった島田が何とか13位になり気を吐いた。

7月25日(日)【第8ステージ】

最終ステージは2.2kmのコースを32周するクリテリウム。島田は積極的に集団前方に位置し、ラスト40km地点でエスケープに成功。約10名の先頭集団が後続を約40秒引き離しラスト4kmをむかえ期待が膨らむ。しかし、ゴール約100m手前で吸収されゴール勝負となり、島田が7位に入った。

最終日の表彰式では、個人表彰やチーム表彰があり、日本チームは2年連続で「ナイヤー・エスプリ・デ・キップ賞(最優秀チームワーク賞)」を受賞した。終始、他国の選手に圧倒されることなく、全員最後まで諦めず全力を出し切った今大会。ジュニアのロードレベルでは、「他国選手にひけをとらない走りができる」、「肩を並べて走ることができる」と確信する場面も多くあり、収穫ある大会であった。とともに、夢や希望に満ちたジュニア選手の強化の必要性を今大会を通してあらためて感じることができた。(三好 泰彰)

[競技結果](7/19-25 ｶﾀﾞ・ｶﾞｯｸ)

個人総合成績			
1	STOCKBURGER Chris	USA	13:20:28
2	BOLIAN Zach	USA	13:20:32
3	VANDERAERDEN Michael	BEL	13:21:31
31	大園 健太	JPN	13:24:40
37	山本 雅之	JPN	13:25:24
53	石井 陽	JPN	13:26:20
109	飯塚 航	JPN	13:38:12
139	島田 真琴	JPN	14:13:12

団体総合成績	
1	Etats-Unis 39:21:10
2	Hot Tubes Cycling Team 39:24:06
3	Afrique du Sud 39:25:29
11	日本 39:30:50

VA CIRCUIT

第21回シマノ 鈴鹿国際ロードレース



前日のTTTでのシマノチーム



先頭を引く優勝の山本

[競技結果] (8/29 鈴鹿サーキット)

個人ロードレース (58.24 km)

- | | | | |
|----|----------------------------|-------------|------------|
| 1 | 山本 雅道 | SHIMANO | 1:18:15.10 |
| 2 | 新保 光起 | 愛三工業 | 1:18:16.13 |
| 3 | Hans Blok | Lowik-Tegel | 1:18:16.91 |
| 4 | 水谷 壮宏 | ブリヂストン | 1:18:17.04 |
| 5 | 野寺 秀徳 | SHIMANO | 1:18:17.16 |
| 6 | 三船 雅彦 | MIYATA | 1:18:17.27 |
| 7 | Martijn Maaskant van Vliet | | 1:18:17.64 |
| 8 | 米山 一輝 | スミハラ 和 | 1:18:19.09 |
| 9 | 広瀬 敏 | チーム NIPPO | 1:18:19.36 |
| 10 | Broche Christophe | シ ョンザイ | 1:18:20.15 |

未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

第20回全日本BMX選手権

スーパークラス優勝のRobert De Wilde



【競技結果】スーパークラス

- 1 Robert De Wilde STAATS USA
- 2 西岡 拓朗 STAATS
- 3 黒田 淳 MX/HARO
- 4 三瓶 将廣 STAATS
- 5 三浦 進 STAATS
- 6 赤城 友治 ヲパ イクル

第20回を数える全日本BMX選手権が8月22日、大阪の大泉緑地内のサイクルどろんこ広場において行われた。

まず、先月オランダのBMX世界選手権で活躍した4選手に対して表彰が行われ、そして開会式の後、全日本チャンピオンを決定するスーパークラスをはじめ、年齢別等の全15クラスが予選から決勝までスピーディに進められていった。

注目のスーパークラスではRobert De Wildeが勝利をものにしたが、Robertは全日本チャンピオンについてはオープン参加ということで、西岡 拓朗が2004年の全日本選手権者となった。



全日本チャンピオン西岡拓朗

世界選での健闘を表彰される4選手



UCI BMX 世界選手権オランダ大会

2004年7月23～25日

7月19日午前10時25分成田より出発。11時間30分を要し無事オランダアムステルダム空港着。宿泊地アイントホーフェン(フィリップス発祥地)まで250km。

翌日UCI・BMX総会に蒔田会長・藤原・桜庭両副会長が出席する。北京オリンピックに対する選考方法についてはアテネオリンピック後に発表すること。なお'05年日本で開催されるパンパシフィック大会には多くの選手の参加呼びかけが理事会であった。

大会会場はホテルより約1時間位のバルケンスワールドという所で、すでに1000台位車がオートキャンプ場に駐車し生活していた。ヨーロッパ大陸から車で参加してくるので便利。その点BMX大会の内容についてはなかなか高

度のレベルと見られている。本大会には2850名が参加していた。従ってヨーロッパでの大会での入賞が一番グレードの高い大会とのこと。この大会で優勝2種目、4位1種目、7位2種目という事は日本勢のレベルの高さが証明されたような気がした。

三瓶優勝の瞬間、そばにいた他国の役員達の握手せめに会い感激の連続であった。多分アジア圏で初めての事だと思う。世界選参加13回目にしての大快挙であった。(あと一歩あと一歩と幾年言い続けてきた事が。昨年のオーストラリア大会で4位入賞2名から急発進、そんな今年の世界選でした。)

JBMXF設立20周年に華を添えてくれた、オランダ世界選手権大会に日本

代表として派遣されて14名の選手諸君!!そして永年の夢であった世界ナンバーワン(それも2クラスで...)の偉業を達成してくれた三瓶将廣(神奈川)の健闘を心から称えたい。(全メンバーを代表して)

UCIチャレンジクラス

- 14ホーイズ(BMX) 優勝:三瓶将廣(神奈川)
 14ホーイズ(クルーザー) 優勝:三瓶将廣(神奈川)
 11ガールズ(BMX) 4位:渡辺 楓(岡山)
 17&オーバーホーイズ 7位:黒田 淳(神奈川)
 10ガールズ 7位:藤井和音(愛知)

特筆すべき事は、世界選ガールズクラスで入賞したのは、初めての事です。

20周年の記念年に素晴らしい成績をあげられた事を胸をはって報告出来ることを選手諸君に感謝しています。

(蒔田 一)

2004年トラックナショナルチーム・強化指定選手の
再編成に伴う選手選考について

選手強化委員会

2004年トラックナショナルチーム・強化指定選手の再編成については、原則として下記の基準により選考いたします。

- 1 2004年(第5回)チャレンジ・ザ・オリンピックの成績優秀者を選考する。
- 2 2005年全日本選手権大会を始め、各大会の成績優秀者を選考する。

第5回チャレンジ・ザ・オリンピック実施要領

主催 (財)日本自転車競技連盟

後援 (財)日本オリンピック委員会

実施期日 平成16年10月17日(日)

実施場所 静岡・日本サイクルスポーツセンター250mトラック

実施内容 (1)200mTT(フライング)男女 (2)250mTT(スタンディング)男
(3)500mTT(スタンディング)女 (4)1kmTT(スタンディング)男
(5)3kmTT(スタンディング)男女

スケジュール(予定) 9:00受付(サイテル駐車場) 11:00~15:00記録会、15:00~15:30表彰式

参加資格 トラックレーサーにより250m走路を走行できる男女。

申込方法 ハガキ・FAX・E-mailにて住所・氏名・年齢(生年月日)・職業・電話番号・参加種目・自己タイムを明記の上、日本自転車競技連盟選手強化部あて申し込む。

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館 2号館5F

FAX: 03-5561-0508 yamada-cycling@japan-sports.or.jp

申込締切 平成16年9月29日(水) 連盟必着

2004年ロード世界選手権派遣選手団

大会期間 2004年9月27日~10月3日

派遣期間 2004年9月24日~10月5日

場所 イタリア・ペローナ

選手団 監督 高橋 松吉(強化コーチ)
効ニク 鬼原 稯(強化スタッフ)
マッサー 石田 宗男(強化スタッフ)

男子エリート 鈴木 真理(JPCA)

女子エリート 沖 美穂(JPCA)

アンダー-23 品川 真寛(京都) 別府 史之(JPCA)

男子ジュニア 島田 真琴(東京) 森本 隆太(和歌山)

女子ジュニア 萩原麻由子(群馬)

2004年MTB世界選手権派遣選手団

大会期間 2004年9月8日~12日

派遣期間 2004年9月6日~14日

場所 フランス・レジェー

選手団 監督 杉山 喜一(MTB小委員会)
効ニク 仁木 康夫(強化スタッフ)
白井 三喜(強化スタッフ)

DH男子ジュニア 櫻井 孝太(新潟)

DH男子エリート 井手川直樹(広島)

DH女子エリート 末政 実緒(兵庫)

4X男子 栗瀬 裕太(大阪) 高松 健二(兵庫)

4X女子 末政 実緒(兵庫)

XC男子ジュニア 小野寺 健(北海道)

XC男子U23 山本 和弘(北海道)

XC男子エリート 色川 浩樹(茨城) 山口 孝徳(長野)

XC女子エリート 鈴木 雷太(長野)

XC女子エリート 片山 梨絵(神奈川)

理事の変更について

平成16年度臨時評議員会(書面審議)によって、井関康正氏が高橋耕作理事の後任理事として選任されました。

なお、後任の井関康正理事の任期については平成16年7月30日から平成17年3月31日までとなります。

連盟の動き(7月下旬~9月中旬)

- | | | |
|-------|-----------------------------|-------------------------|
| 7月20日 | トラックオリンピックチ - ム中長距離強化合宿 | 於: 静岡・日本 CSC (~ 31日) |
| 21日 | ジュニアトラック世界選手権事前合宿 | 於: 静岡・日本 CSC (~ 25日) |
| 24日 | JOC アテネオリンピック競技大会結団式 | 於: 東京・東京プリンスホテル |
| 25日 | ジュニアトラック世界選手権日本代表選手団出発 | 於: アメリカ・ロサンゼルス(帰国 8/3日) |
| 30日 | ワールド・マスターズゲームズ2009 招致委員会解散式 | 於: 滋賀・大津市 |
| 8月 3日 | MTBオリンピックチ - ム強化合宿 | 於: 長野・野辺山(~ 5日) |
| 6日 | オリンピック自転車競技日本代表選手団を励ます会 | 於: 東京・東京ドームホテル |
| 6日 | 平成16年度第2回常務理事会兼選手強化本部会 | 於: 東京・東京ドームホテル |
| 6日 | トラックオリンピックチ - ム短距離強化合宿 | 於: 静岡・日本 CSC (~ 10日) |
| 9日 | アテネオリンピックロード日本代表選手団出発 | 於: ギリシャ・アテネ(帰国 18日) |
| 14日 | アテネオリンピックトラック日本代表選手団出発 | 於: ギリシャ・アテネ(帰国 28日) |
| 22日 | アテネオリンピックMTB日本代表選手団出発 | 於: ギリシャ・アテネ(帰国 31日) |
| 26日 | 平成16年度第2回財政部会 | |
| 9月 1日 | JOC アテネオリンピック競技大会解団式 | 於: 東京・新高輪プリンスホテル |
| 3日 | アテネオリンピック日本代表選手団帰国報告会兼祝賀会 | 於: 東京・赤坂プリンスホテル |
| 6日 | MTB世界選手権日本選手団出発 | 於: フランス・レジェー(帰国 14日) |
| 7日 | 平成16年度第2回総務委員会 | |
| 14日 | 平成16年度第3回常務理事会兼選手強化本部会 | |



シクリスムエコー No.111 2004年9月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL http://www.jcf.or.jp/

JCF協賛スポンサー



森永製菓株式会社健康事業部



株式会社サテライトジャパン

